

大学生の進路選択過程における達成動機

A 5 3 1 6 9 小澤紀子

達成動機とは、困難なことも最後までやり遂げたいという動機のことである。達成動機は Murray,H.A によって社会的達成動機のひとつとして取り上げられた。そして自己効力とは、ある予期の行動が、例えばここでは進路選択に対する行動であるが、自分にうまく出来るであろうかという自信の度合いであり、行動とも直接関係してくるものである。Bandura は自己効力の高低が動機づけを大きく規定すると考える。

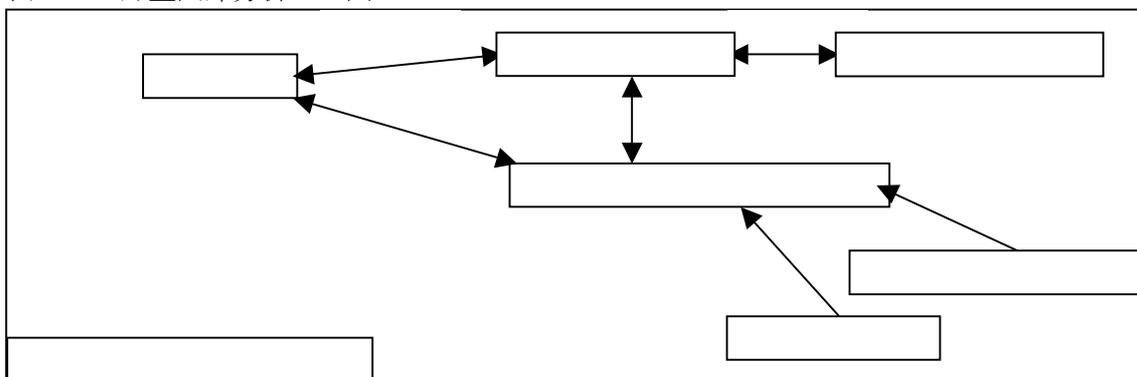
目的

本研究では大学生の達成動機が何によって高まるのかを検討する。進路選択による自己効力、進路選択行動の頻度・開始時期、進路選択に対するやる気などとの進路選択における行動などを変数とし、達成動機との相関を見る。また時期による違いも検討している。

結果

調査は6月と11月の2回行い、その2回とも達成動機と進路選択に対する自己効力の間に相関が見られ、達成動機の下位項目である自己充實的達成動機、競争的達成動機と進路選択に対する自己効力の間にも相関が見られた。また、調査の他の項目でも、6月より11月の方が平均点数が高くなっていた。6月の重回帰分析の結果は表1のようになった。

表1 6月重回帰分析パス図



11月の重回帰分析では達成動機、主観やる気得点の間に相関関係はなく、また相談開始因子、進路(考えていない)と進路選択に対する自己効力の間に関係はなかった。その他は同じ結果になった。

本人の主観(主観やる気得点)と客観的(達成動機)な数字は必ずしも一致するわけではないため、このような結果となったと考えられる。

文献

奈須正裕 1995 自己効力 宮本美沙子・奈須正裕(編) 達成動機の理論と展開 金子書房
堀野緑 1987 達成動機の構成因子の分析ー達成動機概念の再検討ー 教育心理学研究
35, 148-154